

令和3年度第75回栃木県芸術祭美術展審査結果（洋画部門）

| | | | |
|--------|------|---------|------------|
| ○ 応募総数 | 175点 | [200点] | |
| ○ 入賞点数 | 9点 | [10点] | |
| ○ 入選点数 | 115点 | [113点] | * []内は昨年度 |

【審査寸評】

前例のない緊急事態宣言の中で作品搬入・審査が行われ、昨年度より少ないものの175点の作品が出品された。全体的にはモチーフに対して素直に表現した作品が多いように見受けられた。

入賞した作品はそれぞれが様々な表現を用いて特徴ある魅力的な作品であった。

○芸術祭賞「黒くて長い椅子」

身近な雑器類を、てらいのない表現で描いている。黒と白のコントラスト、トーンの波調が美しく、赤い花や黄色のアクセントが効果的で、まっすぐなまなざしに共感する。

ただ、ベニヤ板にぶっつけで描かれており、はがれないか心配。パネルに綿布を張るとか技法的な工夫も必要かと思う。

○準芸術祭賞「つままない」

全体的な色調、モデルのポーズ、表情が良くまとまりのある作品となっている。少々問題があるとすれば、モデルのパンツとイスの色味がかぶる点。イスにかかる光がモデルにもかかると動きが出て更に良かったと感じた。

○準芸術祭賞「Hot summer 2020」

イギリスのアールヌーボー作家、ピアズレーを連想した。木版での緻密な線が魅惑的に全体に広がり、妖しい世界を提供してくれる。

ベテランの手腕が巧みさの上に成立する。楽園すら見る側に感じさせている。

○U25賞「MILK BLOSSOM」

出品作品の中でも新しいモチーフの印象があった。おもしろい視点でおもしろい構図だと思う。明るい色彩でとても好感が持てる。ただ、緑色の部分（葉）と他のものとのバランスが少し悪い気がする。色も絵具の生の様で葉の色として研究が必要かもしれない。銀色の所も結果的に抑えられているが、今後の表現に課題があるかもしれない。

【入賞者及び入賞作品】

○芸術祭賞

田宮 学 (たみや まなぶ) (宇都宮市) 「黒くて長い椅子」

○準芸術祭賞

山口 雅資 (やまぐち まさじ) (矢板市) 「つままない」
坂本 由美子 (さかもと ゆみこ) (宇都宮市) 「Hot summer 2020」

○芸術祭奨励賞

芝野 孝陽 (しばの たかはる) (真岡市) 「晩秋（静寂の時）」
杉浦 和彦 (すぎうら かずひこ) (鹿沼市) 「日々是……」
柴田 重二 (しばた しげじ) (鹿沼市) 「ぼくらの空」
小竹 昇 (こだけ のぼる) (佐野市) 「雪の朝」
佐手 稔 (さて みのる) (宇都宮市) 「家路」

○U25賞

伏木 沙綾 (ふせぎ さあや) (野木町) 「MILK BLOSSOM」

令和3年度第75回栃木県芸術祭美術展審査結果（彫刻部門）

| | | | |
|-------|-----|--------|------------|
| ○応募総数 | 23点 | [22点] | |
| ○入賞点数 | 9点 | [7点] | |
| ○入選点数 | 12点 | [15点] | * []内は昨年度 |

【審査寸評】

本年度の彫刻部門は、昨年に比べ大作も多く、古典的な木彫作品や現代的なコンセプチュアルな作品など非常にバラエティに富んだ作品が応募された。審査では作者の思考がより強く伝わってくる作品が入賞作品として評価された。

○芸術祭賞「最後の晚餐 2021」

名画の一つを立体に置き換え、丁寧な造形で制作されている。作者の視点で解釈と再構築を重ね、現代の社会情勢を照らし合わせ取り込んでいる。緊張する場面がふとユーモアさも感じさせる。作者のコンセプト、そしてそれらを作品にしていくための努力は並大抵なものではなかったと感じ取れる。今後の展望が楽しみである。

○準芸術祭賞「メタルライダー」

役割を終えた部品に命を吹き返す、という意図通りの躍動感のある作品である。

漠然と部品を組み合わせるのではなく、元の部品の造形を活かしつつバイクに跨がるライダーが形作られている所に、作者の細部への気配りが感じられる。

○準芸術祭賞「自刻像」

素直で実直な印象が伝わってくる作品。作者が自身と向き合った時間が感じられ、小ぶりの作品だが、頭部の造形に具体的な描写と省略された描写がバランスよく構成されている点も高く評価された。このバランス感覚を更に磨きながら、色々なモチーフにチャレンジし、沢山の作品を作ってみて欲しい。今後の創作活動に期待する。

○U25賞「ジョン・スミスの椅子」

ジョン・スミスは典型的でよくある人の名前とのこと。天然の枝を椅子の構造に仕立て、リング等を異素材で造形して組み上げた。色のバランスも絶妙。作者は自然の中にある形を手で作る器用さもあるため、小さなモチーフの集合体ばかりでなく、魅力的なかたちを大きくするなど、構成上の緩急も見せて欲しい。

【入賞者及び入賞作品】

○芸術祭賞

厚木 正昭 (あつき まさあき) (栃木市) 「最後の晚餐 2021」

○準芸術祭賞

生井 和夫 (なまい かずお) (宇都宮市) 「メタルライダー」

野村 葵 (のむら あおい) (佐野市) 「自刻像」

○芸術祭奨励賞

亀田 怜那 (かめだ れいな) (真岡市) 「抱擁」

長 睦 (ちよう あつし) (小山市) 「にがうり」

吉川 碧 (よしかわ あおい) (茨城県古河市) 「独立」

陶谷 勇 (すえたに いさむ) (宇都宮市) 「異相」

齋藤 恵一 (さいとう けいいち) (宇都宮市) 「日の出」

○U25賞

原田 桃花 (はらだ ももか) (鹿沼市) 「ジョン・スミスの椅子」

令和3年度第75回栃木県芸術祭美術展審査結果（工芸部門）

| | | | |
|-------|-----|--------|------------|
| ○応募総数 | 73点 | [70点] | |
| ○入賞点数 | 9点 | [10点] | |
| ○入選点数 | 56点 | [55点] | * []内は昨年度 |

【審査寸評】

本年の工芸部門は漆芸・竹芸、織物、陶芸、人形など、昨年を上回る多くの出品があり、レベルの高い作品が多く、作者の工夫と苦勞の跡が随所に見受けられた。また、入選に至らなかった作品にも展示してあげたいものもあり、審査員を悩ませた。

今回は竹芸作品の出品が増えた一方で人形や着物、金工などの出品が減った事が残念であった。

○芸術祭賞「ZEN」

一对の輪状の乾漆造形作品である。乾漆は原型や型に麻布を糊漆を用い貼り重ね成形する造形技法で、様々な形状が実現可能であり、器物のみならず現代漆芸作品の成形に用いられている。一对の輪の一つは呂色(黒)、もう一つは朱色に塗られ、丁寧に磨き上げられ、二つが重なるように静かに佇んでいる。題名の「ZEN」(禅)とは仏教用語で「心が動揺することのなくなった状態」を意味するサンスクリット語であるが、まさに無駄な要素のないシンプルな一对の輪の重なりから心の静けさと安穩な世界観が表現されている。

○準芸術祭賞「蜂の巣編み 盆」

内編は重ね六つ目編(蜂の巣編み)で、底は鉄線編と変化を付け、腰の廻し編は松葉編とし、全体に繊細で纏まりがあり、大人しく品のある素晴らしい作品に仕上がっている。

○準芸術祭賞「令和の世相」

力作であり、過ぎる程にたくさんの要素が込められているが、妙にまとまっている。全体の構成や色合いなどからも、作者の良心の様な不思議なエネルギーが伝わってくる。この作品は、見る側もエールを受け取ることができるような一品であると思う。

○U25賞「金渋花器」

この作品は、中央から外に向かって見えるロクロ目が作品自体をより大きく感じさせる一品となっている。釉も金色を中心に黒い発色が作品全体を落ち着かせている。形の発想、ロクロの技術、釉の発色、どれをみてもU25賞に十分値する作品である。

【入賞者及び入賞作品】

○芸術祭賞

中山 一郎 (なかやま いちろう) (宇都宮市) 「ZEN」 (漆芸)

○準芸術祭賞

永井 政夫 (ながい まさお) (宇都宮市) 「蜂の巣編み 盆」 (木竹)

高瀬 待子 (たかせ まちこ) (宇都宮市) 「令和の世相」 (染織)

○芸術祭奨励賞

伏木 和子 (ふせぎ かずこ) (野木町) 「しんしゃつぽ辰砂壺」 (陶芸)

鹿野 豊子 (しかの とよこ) (野木町) 「劣化した線量ポスト」 (陶芸)

川元 由美子 (かわもと ゆみこ) (野木町) 「蒼天への飛翔」 (染織)

増山 明恵 (ましやま あきえ) (下野市) 「宇宙の卵～流動～」 (漆芸)

ん太郎 (んたろう) (宇都宮市) 「むむから天使」 (陶芸)

○U25賞

吉野 真緒 (よしの まお) (益子町) 「きんしぶかき金渋花器」 (陶芸)